

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 29 年度教育研究報告書

事業課題名	国際日本哲学会での研究の成果報告と対話実践
代表者名	上原 麻有子
事業概要 (600 字程度)	<p>学生を学会に派遣する本事業は、「継続の意図」をご理解頂くことができ、2013 年度以来、毎年採択されてきた。例年と同じく、日本哲学史専修の現役学生、若手 OD の、国際的な場での研究推進を目的とする事業であるが、今回は、International Association of Japanese Philosophy (IAJP) の第二回大会に学生・OD を派遣した。この機会に、彼らは世界の日本哲学研究者が集まる場で、各自の研究成果を報告し、英語でプロの研究者らとの対話を実践した。それを反省材料として、この経験を次の研究のステップに活かすことになる。</p> <p>本学会は、Journal of Japanese Philosophy (JJP, SUNY 出版) を基盤とし、この雑誌と世界の日本哲学研究の促進のために発足した。第一回大会は、九州大学で開催された。上原は雑誌の編集責任を務めており、IAJP の企画者側に立つ。今回は、学生・OD の引率者として同行した。</p> <p>本学会第二回大会の案内：http://tetsugakuconferenc.wixsite.com/2017</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>上記の国際日本哲学学会 (IAJP) 第二回大会は、7 月 28 日 (金) ~29 日 (土) に、国立台湾師範大学で開催された。参加した学生と OD は、以下の通り、各パネルセッションで、各自研究発表を行った。</p> <p>藤貫裕 (D1) 発表 “Philosophical Poetics of Kuki Shuzō and Izutsu Toshihiko : Æsthetical and Mystical Functions of Rhyme”, パネル Japanese Æsthetics</p> <p>大角康 (D1) 発表 “Unifying Intuition as Non-experience”, パネル Self, Experience and the World</p> <p>満原健 (OD) 発表 “The phenomenological Character of Nishida’s Philosophy in <i>Intuition and Reflection in Self-awareness</i>”, パネル Nishida Kitarō</p> <p>上記参加者自身から見た成果は、次のようなものである。</p> <p>海外の研究者とともに、英語を使用しパネルで発表するというのは、大変貴重な経験であった。また、日本哲学への国際的な関心の高まりと、海外での日本哲学研究の質の向上を体感することが出来た。</p> <p>学術的な内容の発表の際の自分の英語力の低さを痛感した。伝えたい内容を即座に英語で表現するというレベルには至っていない。また少し癖のある発音のネイティブスピーカーの英語はほとんど聞き取れず、明瞭な発音をする人の場合でも、10 分以上続く発表内容を正確に理解することは難しかった。</p> <p>15 のテーマに分けられたパネルセッションでは、多様な視点とユニークなアプローチによる発表がなされ、英語・日本語・中国語が混在する活発な質疑応答が展開された。例えば、「日本美学」のセッションでは、司会はイスラエル人、発表者の一人はカナダ人であった。議論の場では、各発表者が取り上げた美学や文化論についての理論的な問題に関心が向けられたほか、「日本文化」への関心に基づき、取り上げられた哲学者の思想背景を探る質問なども出された。今回の国際学会で学んだことは、博士論文執筆のための研究に、是非とも活かしたい。</p>

